

## メープルレター（100）

### モノクロの霜月

霜月になりました。時のたつのが何と速いことでしょう。ここしばらく雪模様です。景色は幽玄なモノクロの世界になりました。つい先日まで港にとまっていた豪華客船の姿は幻だったような気がしてきます。それにしてもあー寒い。日本のこたつが何とも懐かしい気がします。

この雪のなかで孫娘はテレビもいらず、人形もレゴもいらず、子犬のように走り回っているようです。子供は自然の中では何とポジティブで明るいのか。。。爬虫類のように新陳代謝の退化したマダム田中とのギャップは益々激しくなります。

義理の長男は9月末から2週間別世界の日本に旅行をし、カルチャーショックで戻ってきました。成田から滞在先の新宿ホテルまでタクシーで行ったようですが、まず、

「なんて高速が綺麗なんだ！」

モントリオールの高速は工事だの修理だのでスムースに走れる所はありませんから。

「なんてサービスが素晴らしいんだ。　おもてなしの精神が、なにより印象的だった。完璧な一步先を読むサービスには驚いたのなんのって。しかも笑顔でやさしく。」

気の利いたサービスはマダム田中にしても、帰国の度に涙がでるほど感激します。

「トイレが素晴らしい。紙を使わなくても良いトイレ。僕たちはまるで時代遅れの野蛮人だ。」

凄くわかります。

「縦横無尽の合理的でスムースな交通網が何て見事なんだ。」

渡しておいた PASMO のカードであちこちでかけたようです。

「スカイツリーから見た東京は、マンハッタンの 100 倍はある。これほど隅々まで発展している町が世界にあるのだろうか。しかも、町は清潔で人はマナーが抜群。」

「ただ、観察してみると、サラリーマンは労働時間は長くとも、それほど必死に働くみたいだね。全員、地味なスーツで早朝出勤、遅くまで事務所に居残り。家には一体何時に帰るのだろうか。それと、あのロリータというか少女じみた女性達の現象がどうも理解に苦しむ。」

長男は、都庁の真向かいのホテルに滞在しジムで筋トレをしながら、サラリーマンの仕事ぶりを観察していたようです。

「僕たちは合理的にマキシマムに労働時間を使い、走り回って仕事をしているけど、日本では何と余裕でのんびり仕事をしているのだろう。」

日本のサラリーマンは、走り回る時と余裕の時との使い分けがあるのだと思いますが、欧米人にはこの仕事の仕方はなかなか理解できないだろうと思います。社会の仕組みも違います。東京も京都もあまりにも観光客が多く、それに圧倒されていたようです。本当の日本が見えないことも多かったのでしょう。

食事は観光客がほぼいない所を、翻訳アプリを使ってコミュニケーションをとりながらおいしく食べていたようです。

「ともかく何を食べても美味しかった。」

こちらに戻ってから、日本とモントリオールとの食材と料理のあまりにも大きいギャップに何も食べる気にならなかったようです。日本では有名な豪華レストランより街角の庶民的レストランの方がずっと美味しく食べられると思い、特にレストランを指定はしませんでした。4歳の娘を連れていますから、条件も限られてきます。ビルの中に取り入れられている大きな水族館に驚いていました（品川プリンスホテルの中の水族館だと

思います。このホテルに滞在する日だったので、薦めておきました) 短い間に新幹線を使いながら、子ずれで東に西にと良く色々見て回ってきたと感心しながら話をききました。頭と味覚に刺激的な日々だったようです。ただ、それ以上あまり聞けなかったのです。

というのは、マダム田中は足腰の痛みでしばらく動けなかったのです。10月始め頃から膝が痛みはじめ座骨神経痛も伴い、ほぼ1ヶ月間痛みとの格闘で長男に会えなかったのです。やっとどうにか動けるようになりましたが、元に戻るにはまだ少し時間がかかりそうです。9月に無理をして大きな行事の活けこみをしたのが良くなかったようです。それほど体力が落ちているとは思わず、頑張り過ぎたようでした。病院の緊急でこの状態で5-6時間待って診療してもらほど気力も体力もなく、ひたすら鎮痛剤で耐えしのんでいました。

10月半ばドリトル先生がお飾りの会長をしている裏千家のモントリオール支部が長年の功績を認められ外務大臣賞をいただくことになり、その表彰式とレセプションにドリトル先生に脚を引きずりつつ同行して行ったのが唯一の外出になりました。支部のメンバーにとっては嬉しい表彰でした。ドリトル先生は着物を着て舞い踊る蝶々のように動いている女性たち(老若の差はあったとしても)にお茶の行事でごきげんようの挨拶をするだけの極めて役得の多い仕事なのですが、今回は会を代表して表彰状をいただくことになりました。

「ドリトル先生はメンバーにはラッキーマン。良いことを運んでくれる。」

幹部の人たちは感無量のようでした。これから活動の励みになってくれれば何よりです。

今日(11月16日)は娘の40歳の誕生日です。生まれた時に大きかった娘は今もなお大きく(身長175センチ)、仕事と子育てに忙しくしております。娘のリクエストで鮭のパイ皮包み(まさごと生クリームと白ワインでソースを作る)を作り、お寿司と

パーティシエに頼んでおいたバースデーケーキも添え、美味しく楽しく誕生祝をしました。

子供達はこれで全員が40歳以上。マダム田中も急激に増えてきた皺の数が気になってきました。

そうそう、来年は暑い夏（7月半ば）に次男が家族4人で日本に行くようです。この日本の夏の暑さの中での旅は止めて、他の季節を選んだ方が良いと注意をしてはみたのですが、燃えあがる気温より日本の旅への燃える情熱の方の温度の方が高いようです。